

平成24年度 秋号（第5号）

# 東京都へき地医療支援機構通信

【編集・発行】

東京都へき地医療支援機構

（東京都福祉保健局医療政策部救急災害医療課医療振興係内）

## 東京都へき地医療支援機構無料職業紹介事業所からのお知らせ

東京都へき地医療支援機構無料職業紹介事業所では、へき地医療機関での勤務を希望する方に対し、就職の相談・斡旋・紹介等を行っています。取扱職種は、医師、歯科医師、薬剤師、(准)看護師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、歯科衛生士、歯科技工士、臨床工学技士、栄養士です。

ホームページでは、へき地医療機関の求人情報を掲載するほか、無料職業紹介事業所への登録方法等もご案内していますので、ぜひご覧ください。(URLは裏面に記載)

特にへき地医療機関では看護師が不足しており、へき地医療機関での勤務にご興味がある方はぜひお問い合わせください。

無料職業紹介事業所としても様々なイベントにて出展もしくはパンフレットを配布しております。これらのイベントは例年同時期に行われているものが多いので、ご興味がある方はぜひいらしてください。医療だけでなく、へき地の様子を知るいい機会になると思います。

【平成24年度実績(平成24年11月1日現在)】

イベント名	会場	日付
看護フェスタ	@新宿駅西口広場 イベントコーナー	5/13
島じまん 2012	@竹芝棧橋 竹芝客船ターミナル	5/26~27
ふれあいナースバンク 再就職相談会	@東京都ナースプラザ (飯田橋)	6/22
		9/7



(看護フェスタに出展したブース)

## 支援機構専任担当医師について

東京都へき地医療支援機構通信「平成23年夏号(第3号)」にて、平成23年4月をもって田口医師から井上医師に支援機構専任担当医師を変更した旨、ご報告させていただきましたが、平成24年4月からは、再び田口医師に専任担当医師として復帰していただき、井上医師に代わり、新たに板垣医師にも専任担当医師を引き受けていただいています。今号でも新専任担当医師である板垣医師の紹介をしております。

専任担当医師2名体制とし、今後さらに積極的に医療従事者確保に力を入れていきたいと考えております。

## 新・支援機構専任担当官から



東京都へき地医療支援機構  
専任担当医師 板垣 信吾

はじめまして。東京都福祉保健局医療政策部救急災害医療課の板垣と申します。前任の井上の後を継ぎ、平成24年4月からへき地医療支援機構専任担当医師を拝命いたしました。御挨拶が遅くなり誠に申し訳ありません。どうぞよろしくお願い申し上げます。

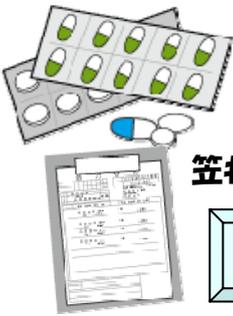
私自身も前任の井上と同じく自治医科大学を卒業し、都立病院で初期研修後、島しよ・山間へき地の医療機関で2年間勤務させて

頂きました。今年度は東京都庁においてへき地医療行政に関わる仕事をしております。

へき地医療は非常にやりがいのある、魅力あふれる現場だと思います。人と人のつながりが深く、医療の原点である全人的な医療を実践することが出来ます。また、医療だけではなく行政とも連携することにより、多くの方々の健康増進に寄与することが可能です。

「東京都へき地医療支援機構通信」では、へき地医療に興味をお持ちの医療従事者の皆様へ情報提供を行い、へき地町村の医療従事者確保の取組みを支援したり、へき地医療の普及啓発活動も行っております。皆様のお力となり、へき地医療に少しでも興味を持ってくださるよう、努力していきたいと思っております。

今後とも、よろしくご愛読の程、お願い申し上げます。



## へき地町村で働く医療従事者の方にインタビューしました

笠井さん、お忙しい中、快く取材に応じていただき、ありがとうございました。

医師 笠井 あすかさん (小笠原村立小笠原村診療所)



### 島で勤務するようになったきっかけは？

広報東京都に掲載されていたへき地医療従事者募集の欄を見たことです。

大学病院勤務時に新潟県や千葉県のへき地に短期間勤務したことはあったのですが、東京都のへき地医療従事者募集を見て応募してみようと思いました。

実際に小笠原に行ったこともなかったので漠然としたイメージしか持っていませんでした。

### 勤務先を簡単に紹介してください

世界遺産に登録されたことからメディアを通じていろいろな情報を得ているとは思いますが、何より「遠い」ということです。内地との交通手段は週一便の船のみで25時間30分かかります。

建物は平成22年に建て替えたばかりで2階に老人ホームを併設し、とてもきれいです。スタッフは平均年齢37歳で明るい職場です。釣りやスポーツ大会への参加を通じてチームワークを大切にしています。

### 一日の仕事の流れは？

8時から患者の容態等についてミーティングや申し送りをし、9時から外来が始まります。昼休みは12時から13時30分までですが、外来状況によっては時間がずれることもあります。午後は水曜のみ外来があり、それ以外は妊婦健診、予防接種、乳幼児健診、会議等があり、業務終了は17時15分で、夜間は、看護師は当直体制で医師はオンコール体制です。

増加傾向である島民や観光客、小笠原海域での急患のニーズにこたえられるよう体制を整えています。

### 現在の職場に勤務して良かったことは？

医療、福祉、保健事業での連携が密な事や患者との距離が近く患者の反応がすぐにわかることです。

また自分のやりたい医療に対し、スタッフや関係者がとても協力的で実行に移せるところもやりがいを感じます。島民のために皆で連携し対応する姿勢と実行力があると思います。

島民の平均年齢は37歳ですが、今後高齢化は避けられず、また超遠隔地の為、合併症予防目的に口腔ケ

アや生活習慣病等の予防のための健康管理や栄養指導を行い、知識を広げることに力を入れています。

### 休日の過ごし方は？

子どもとの時間を大切にしています。一緒に遊んだり、のんびり過ごしたり、会話する時間を多くとれていて、楽しく貴重な時間を過ごしています。そこが内地で勤務していたときと違うことです。

また、友人とシュノーケリングやヨガや海辺でランチをする等の自分の時間も楽しんでいます。

### 生活していて良かったことは？

子どもの成長において欠かせない人との関わりがとてもあります。島には子供が多く、島民が子育てに協力的です。世界遺産の自然の中でのびのびと島での生活を楽しんでいます。治安も良く、安心して子どもを遊ばせられるのも子どもに良い影響を与えていると思います。

### へき地医療従事を希望する方へメッセージ

欧米の雰囲気が残るおらかな太平洋の楽園で暮らし、充実した日々を送れると思います。

仕事面でも幼児から高齢者まですべての疾患を診て、病気だけでなく生活や心情も理解しながら支える「医療の原点」を学ぶことができると思います。

長旅とはなりますが、ぜひ小笠原にいらしてください。診療所見学も大歓迎です。



【診療所スタッフの皆さん・(笠井医師は中段右から4人目)】

### \*編集・発行\*

東京都へき地医療支援機構 (東京都 福祉保健局 医療政策部 救急災害医療課 医療振興係 内)

【電話】03-5320-4428 【Fax】03-5388-1441 【E-mail】S0000299@section.metro.tokyo.jp

【HPアドレス】[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/joho/shokuin/tousyo\\_bosyu/index.html](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/joho/shokuin/tousyo_bosyu/index.html)

☆☆ご意見・ご感想をお寄せください☆☆